Jトラスト

保証残高積み上げ

M&A効果で増収

Jトラスト（本社東京、藤澤信義社長）の平成二十五年三月期第3四半期決算（連結）は、営業収益四百六億五千五百万円（前年同期比一三五・七％増）、営業利益百十五億八千万円（同一七二・四％増）、経常利益百三十億七千六百万円（同二四三・五％増）、四半期純利益百二十八億八千七百万円（同六〇・九％減）だった。

KCカードにおけるクレジット事業収益、日本保証における消費者金融事業収益、アドアーズのアミューズメント施設収入が加算されたことにより営業収益が大幅に増加し、営業利益、経常利益の増加につながった。四半期利益については前第2四半期にKCカードの株式取得に係る負ののれん発生益を特別利益として計上していたため、減少となっている。

主な金融関連事業の業績は次の通り。

【金融事業】

（事業者向貸付業務）

中長期的な戦略として商業手形割引の推進を行った結果融資残高は順調に推移し二十億三千七百万円（前年同期比二・三％減）となった。営業貸付金は回収が順調に進んだことにより減少した一方、不動産担保融資を中心に残高の積み上げを図り、融資残高は二十五億八千百万円（同四三・二％増）となった。長期営業債権（八千万円、前年同期比五八・九％増）を含めた融資残高の合計は四十六億九千九百万円（前年同期比一九・三％増）となった。

（消費者向貸付業務）

融資残高は回収が順調に進んだことにより減少した一方、武富士の消費者金融事業承継及びクレディアの連結子会社化により増加し、営業貸付金残高は百二十九億九千七百万円（同一二七・六％増）となった。長期営業債権（十七億二千三百万円、前年同期比三・三％増）を含む融資残高の合計は百四十七億二千百万円（前年同期比九九・五％増）となった。

（クレジット・信販業務）

KCカードにおいて前身の国内信販から受け継いだブランド力とノウハウを活用したクレジットカード事業を展開しているが、カードキャッシングにおける回収が進んだことにより割賦立替金残高は五百十七億五千六百万円（同三〇・五％減）と減少した。長期営業債権（四十億三千三百万円、前年同期比五〇・〇％減）を含めた割賦立替金残高合計は五百五十七億九千万円（前年同期比三一・四％減）となった。

（信用保証業務）

中長期的な戦略として信用保証業務の拡充を掲げ、第3四半期連結累計期間ではKCカードや武富士の顧客基盤などの有効活用を図るとともに、主に西京銀行及び東京スター銀行の貸付に対する保証を中心に債務保証残高の積み上げを図った。また、新たな提携先金融機関の拡大にも注力し、地方銀行三行との提携契約を締結した。

債務保証残高は、有担保貸付に対する保証では百六十六億円（前年同期比五五・二％増）、無担保貸付に対する保証では百六十六億三千四百万円（同二〇三・六％増）となり、合計で三百三十二億三千五百万円（同一〇五・五％増）となった。

（債権買取業務）

新たな債権についても積極的に買取を行っているが、回収がそれを上回って推移しているため、買取債権残高は二十四億八千二百万円（同一・一％減）となった。

以上の結果、金融事業における営業収益は二百六十二億五千七百万円（同八三・九％増）、セグメント利益は百十二億三千五百万円（同一六〇・二％増）となった。

【海外事業】

ネオラインクレジット貸付が韓国で消費者金融事業を展開していたが、平成二十四年十月に親愛貯蓄銀行が貯蓄銀行業を開始したことに伴い、貸付に関しては親愛貯蓄銀行が中心となって事業を展開することとなっている。営業貸付金は四十六億六千二百万円（同一〇・三％減）、銀行業における貸出金は二百二十五億千七百万円となった。

以上の結果、海外事業における営業収益は十二億四千三百万円（同一三・〇％減）、セグメント利益は二億七千八百万円（同六四・五％増）となった。

■ Jトラスト商品別残高の四半期ごと推移 ■

	H23.12	H24.3	H24.6	H24.9	H24.12
商業手形	2,084	2,119	2,484	1,784	2,037
営業貸付金	12,712	27,713	24,886	24,984	20,241
銀行業における貸出金					22,517
割賦立替金	74,440	65,024	60,044	55,319	51,756
買取債権	2,510	2,310	2,239	2,028	2,482
長期営業債権	9,779	8,487	7,548	6,603	5,837
債務保証残高	16,174	22,072	24,515	27,111	33,235

※単位:100万円。銀行業における貸出金は平成24年10月に韓国の親愛貯蓄銀行が、破たんした未来貯蓄銀行から引き継いだ一部資産